

問題も起きた韓国は、日本に比べて食には保守的だと言われてきた。しかし、いざふたを開けると、抵抗感なく受け入れられている。

## 恩恵は一部企業

F T Aでは輸出が増え、経済が良くなるといわれてきた。輸出が増えて潤ったのは一部の企業で、一般の企業に恩恵はない。むしろ所得格差の問題が起きている。

日本のGDP（国内総生産）に占める輸出の割合は15%。より割合の高い韓国でも良くなると証明されているのだから、日本でも予想できる。自動車製造など工業国だから輸出を伸ばし、そのために農業は譲る。その構図は韓国とうり二つだ。

F T Aを契機に国内のルール作りも変わった。例えば遺伝子組み換え食品の輸入は、国内の法律が簡素化された。

第三者機関による検査は必要なく、過去に輸入実績のあるところは認められるようになった。F T Aでは遺伝子組み換えについて、細かく書かれていない。しかし、それが国内で変わってしまう。

理解しにくいかもしれないが、交渉では「文書に書かれたことは守る」が、言い換えれば「書かれていないものは守られなくてもいい」ということ。米国も不利なことを、わざわざ文書に書くことはしない。しかし、米国の意をくんで変えてしまう。そんなことはあり得ない、と日本側は主張するが、実際に韓国では起きている。

## 「もうけ」のための規制緩和

（韓国で問題となっている）水道と医療の民営化もF T Aには書かれていなかった。W T O交渉の内容を順守して引き続き交渉する、とだけ簡単に書かれている。しかしその後、法律が変わった。誰が変えたのか。米国ではなくて国内の動きだった。

米国でも韓国でも、資本は金をもうける法則で動く。どちらも厳しい法律はない方がいい。日本と同じくこれから金を生み出すのは公的な分野。電気や水道、医療、金融機関など。それがF T Aをきっかけにハードルが下がり、法律が変わった。T P Pを喜んでいる国内資本がある。

自由貿易でもうかるのは、青い目で金髪の外国人だけではない。資本の性質は同じで、国内対海外という目だけで見てはいけない。

日本では全農をつぶすという話をしている。韓国でもF T A交渉の後に農協改革が出てきて、その状況と重なる。新たな資本を入りやすくする。韓国で全農に当たる組織は、現在は持ち株会社になった。F T Aによって農業資材が安くなるといわれた。しかし実際は安くなっていない。

小泉純一郎元首相が日米F T Aはやらないと言い、米国は韓国と“練習試合”をやった。それがうまくいった。日本政府は今後、T P Pの「追加交渉」というかもしれない。しかし、それは追加ではなく、白紙に戻してより厳しい交渉を強いられる「再交渉」だろう。その内容は米韓F T Aがベースになる。いかに日本にとって有利に進めるかはこれからの知恵にかかるといえる。

日本と社会的な仕組みが似ている韓国の状況をよく見極めることが必要だろう。

## <米韓F T A>

米韓自由貿易協定。2006年2月に交渉開始宣言し、07年4月に交渉妥結。12年3月に発効した。農業をはじめ、自動車、繊維、医療、金融、労働など項目は多岐にわたる。関税の撤廃や規制緩和などを盛り込み、貿易の自由化を図った。

TPPと米韓FTAの主な内容比較		
	TPP	米韓FTA
米	・特別輸入枠(SBS方式)を新設	・除外
牛肉	・関税38.5%を発効16年目に9%まで削減	・関税40%を15年かけて撤廃
豚肉	・低価格帯の従量税1kg 482円を10年目に50円 ・高価格帯は4.3%を10年目に撤廃	・冷凍は25%を14年1月に撤廃 ・冷蔵、その他は22.5%を10年かけて撤廃
乳製品	・脱脂粉乳、バターに低関税輸入枠を新設 ・ホエー(乳清)の関税を長期間かけて撤廃 ・チーズの一部の関税を撤廃	・全脂粉乳、脱脂粉乳の現行関税176%を維持、低関税輸入枠を新設
オレンジ	・生果は4-11月の関税は6年目、12-3月は8年目に撤廃	・生果は関税50%を季節関税に

酪農学園大学 柳准教授作成